

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立三池小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒837-0923

福岡県大牟田市大字新町 289 番地 1

E-mail miike-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/miike-es/

幼児児童生徒数 男子 209 名 女子 184 名 合計 393 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「郷土を愛し、知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体を持ち、たくましく生きぬく子どもを育成する。」を学校理念として、ESD を地域と「関わり」「つながる」教育と捉え、ESD の実践を通して自分の考えを伝え、相手を説得できる（認め合う）力の育成を目標とした。

具体的には、体験活動の重視、表現活動の工夫、振り返り活動の重視を柱に、①郷土に係わる活動、②環境に係わる教育、③食育に係わる学習、④福祉に係わる学習を行った。

① 郷土に係わる学習

三池校区には、多くの史跡や文化財があります。三池小学校では、全学年で校区の史跡を巡る「地域体験学習」を実施しています。学年別に巡る場所を決めて 6 年間で三池地区にあるたくさんの史跡を学習し終えるようにしています。例えば 6 年生は、「陣屋眼鏡橋」「新町彌剣神社」「高田行宮跡」など歴史ボランティアガイドの方の詳しい説明を聞きながら、史跡を回ってきました。史跡や文化財に触れる活動を

通して、三池の歴史や伝統を学び、三池地区のひと・もの・ことのよさと地域への愛着を深める事ができました。

② 環境に係わる学習

ふるさと三池の豊かな自然を守り残していくために、本校では、5年生が校区を流れる堂面川を対象にして環境について調べます。今年度は、水質により住む生物が違うことから実際に採取して生き物の種類や数を調べたり、透明度を測ったり、パックテストで水の汚れを測定したりしました。これらを下流域と比較することで、三池の自然のよさを知り、次の時代に引き継いでいかなければならないことに気がつきました。そこで、自分たちにできることを考えたり、調べたりして新聞にまとめ、他の学年の児童に広めました。

③ 食育に係わる学習

本校には三池農園という広い畑があります。そこで野菜を育てて、収穫したものを調理し、給食の食材に使ってもらい食べる活動を行いました。実際に作物を育てるという体験活動を通して、つくる人の苦労や自然への感謝の気持ちを育むことができました。また、野菜を育てる上で保護者の方にも協力していただきました。

④ 福祉に係わる学習

本市の高齢者（65歳以上）人口が総人口に占める割合（高齢化率）は35.1%となっており、全国や福岡県と比較して、かなり高い数値となっています。そこで、高齢者に関わる現状と課題を調べることで健康と福祉に関する認識を高め、自分にできることを考え、取り組む活動をしました。自分たちの頑張る姿を見て元気にすごしてもらいたいと、運動会の招待状を渡して高齢者の方とふれ合う機会を設けました。



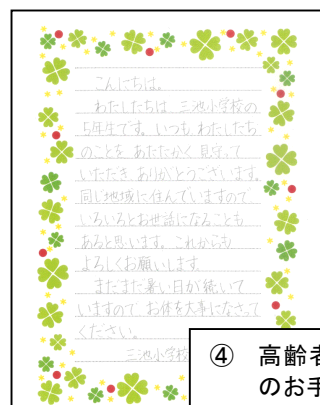
① 地域体験学習の様子



② 三池校区の環境について調べようの様子



③ 野菜大すきの様子



④ 高齢者の方と交流しようのお手紙

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	□ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	□ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	□ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16.ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・子ども大牟田検定ガイドブック（大牟田市教育委員会）
- ・おおむたの環境（大牟田市 環境部）
- ・大牟田市かいごほけん白書（大牟田市 保健福祉部）
- ・おおむた「大蛇山」まつり公式ホームページ

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

一人一人の子どもが持ち味を発揮しながら主体的に生き抜く力を身に付けることができるよう、全教育活動にわたる（教科横断的な）学習を意識しながら指導計画を編成し、実施、評価、改善を繰り返しながら最適化を図っている。特に、重点目標達成のため、

- ・ 地域の特色から郷土・環境・福祉・食育・ボランティアなどの横断的・総合的な課題の学習を行う。
 - ・ 地域と直接関わる体験を重視し、自ら課題を見だし、主体的に問題解決できるようにする。
 - ・ 各学年の狙いを明確にし、学習内容と各教科等や各学年間の連携を図り、系統的・発展的な指導ができるようにする。
- ことに努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

継続的に活動に取り組めるように教育指導計画を作成し、活動内容や手順等掲載している。また、内容に関しては毎年見直しを行い、取捨選択や改善を行っている。

指導を行うにあたって、共通理解を図り、引き継ぎや情報交換を行いながら、全職員がそれぞれの特性を生かし協働し合い、学校全体で子どもを育てる学校協働体制の確立に努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内においては、PDCA サイクルに基づき、計画、実行、評価、改善を定期的に行っている。特に評価に関しては、定期的に教育活動の振り返りと改善のための方策について話し合ったり、自己評価を行ったりしている。外部については、学校関係者評価委員会を3回（計画・中間評価・最終評価）実施した。成果としては、PDCA サイクルを小さくしたことで、子どもの実態に応じた活動ができたことがある。課題は、取り組みや成果を伝える場（表現の場）を積極的につくることがある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

保護者や地域に関しては、学校のホームページを使って児童の活動の様子や感想を紹介したり、地区公民館に児童の ESD に関する成果物を展示したり、ユネスコスクール子どもサミットで本校の ESD の取り組みに関する展示・紹介をしたりしたことで、学校における成果を広く周知することができた。また、学校関係者評価委員会においても、子どもたちの活動とその成果を紹介した。地域を取り上げた学習が多いため、地域に協力をお願いする上で有効であった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ユネスコスクール ESD 研修会(8月 大牟田市教育委員会 主催)、ユネスコスクール全国大会(12月 文部科学省 日本ユネスコ国内委員会 主催)に職員が参加し、他地域の実践報告を聞いたり意見交流を行ったりした。また、大牟田 ESD コンソーシアムについてユネスコスクール担当者を中心に連携を取ったり、それぞれが行っている取り組みについて紹介合ったりしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現在本校は大牟田 ESD コンソーシアムによる市内のユネスコスクールとの情報交換、意見交流等行っている。具体的には、定期的に情報交換会や研修会を行ったり、会報誌を作成したり、ユネスコスクール子どもサミット(子どもたちによる取り組みの報告会)に参加したりしている。

近隣にユネスコスクールがあるので、今後子どもたちの交流についても機会をつくり取り入れる事も必要だと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

- ・ 学校との家庭・地域が連携した活動を通して郷土の文化や伝統を大切にする心が育ち、ふるさとを自慢できる子どもが育ってきている。
- ・ 地域の人々とかかわりを深め、地域の人々に感謝する心や先人たちの偉大さに目を向けることが育ってきている。
- ・ 地域に関わる課題に気づき、自分たちにできることを考え、実行に移すようになってきた。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

以下のことを重点内容として活動に取り組む。

低学年○ 季節に応じた体験的な活動を通して、生活の中でのさまざまな自然環境に気づき、緑の豊かさのよさを実感する。

- 校区のまち探検を通して、地域を身近に感じることでふるさとのよさを実感する。

中学年○ 校区のゴミと自然環境の関わりやゴミの処理方法等について調べ、ゴミの減量や分別、リサイクル活動が住み続けるまちづくりや緑の豊かさを守ることにつながることに気づく。

- 校区の昔話や史跡を調べることで地域のよさに気づく。

高学年○ 郷土の文化や生活に親しみ、郷土を大切にしようとする態度を育てる中で住み続けるまちづくりについて考える。

- 高齢者に関わる現状と課題を調べることで健康と福祉に関する認識を高め、自分にできることを考え取り組む。